

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	循環型農業実現モデル推進事業(菜の花プロジェクト)	会計	01	一般会計
		款	06	農林業費
		項	01	農業費
基本施策	持続的で個性的な農林業を実践する	目	03	農業振興費
		細目	305	地域バイオマス利活用推進事業
行革大綱の重点事項番号		細々目	52	循環型農業実現モデル推進事業
担当部署	コード 191200 名称 産業建設部農林振興課	担当者氏名	小林 康志	連絡先 43 - 2302 (内線) 335

事業事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	遊休農地・伊賀特産品・バイオマス資源	※対象件数
成果(どうする)	菜種を作付し、景観形成を図りながら遊休農地を解消する。菜種油を商品化し、伊賀特産品として売り出す。廃食油をBDF(バイオディーゼルの燃料)として循環する。プロジェクトの効果を環境や福祉分野に波及させる。(地域美化運動、障がい者雇用など)	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 19 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H22 事業内容	地域資源循環モデルの構築、環境に優しい農業を実践することで伊賀農産物のブランド化を推進。バイオ燃料を使って遊休農地50haに菜の花を栽培した。伊賀産菜種油を地域特産品としてブランド化し発売を開始した。初年度売上は約400万円であった。地域活性化として、伊賀鉄道菜の花列車イベントを開催した。	
社会情勢の変化等	都市農村交流事業による癒しの提供や、障害者雇用など農林行政に新しいニーズが求められている。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	
3 年間運営費	
4 市内の類似施設	

事業事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
菜の花植栽(遊休農地解消)面積	a	a	目標	500	目標	3500
			実績	3500	実績	5500
			目標		目標	
			実績		実績	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
搾油量		生産量を指標とする	g	目標	1000	目標	10000
				実績	500	実績	7000
				目標		目標	
				実績		実績	

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの財源内訳	国庫支出金	116,818	4,455	3,400	2,800
	県支出金	62,941	2,080	1,700	
	地方債	44,200	2,375		
	その他	0	0		
	一般財源	9,677	0	1,700	2,800
事業投入人件費(B)		1.0人	7,200	1.0人	7,200
フルコスト(A)+(B)		124,018	11,655	10,600	10,000

事業事業の評価(Check)

必要性	判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
	判断	理由	
○	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		H24～は、両施設の運営について指定管理体制の導入を予定している。
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
○	市民にとっての必要性が高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
○	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
○	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
○	事業事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。		菜の舎運営については、単純作業について障害者雇用を予定し、社会参加の機会を提供したい。
○	基本施策の目的を実現するために現在の事業事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高いサービス水準や対象を見直す余地がある。		
○	当初設定した計画を80%以上100%未満実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
○	予算の繰越の有無 無	予算の繰越がある場合、繰越の種類	
○	収支の繰越がある場合、繰越の種類	取組時期の悪天候で予定通りタネが収穫できなかった。	
○	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		施設の運営についてH23まではハード・ソフトともほぼ国費で賄っている。
	基本施策の中で類似・重複する事業事業がある。		
○	【事業名】		
○	受益者負担を求めることができる事業である。		
○	全体コストにおける負担構成は適正である。		
○	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	H22年度中に農業団体・農村集落が情報交換できる場もしくは組織を整備する。 品質管理体制、製品流通体系、販売促進体系を確立し、百貨店、量販店、飲食業、通販などへの販促活動に官民一体で取り組む。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	国の交付金メニューを利用しハード整備を完了した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	服部 智秀
【方向性】	拡大・充実
【理由】	
事業の方向性	栽培面積や搾油量の拡大を方針とする。 伊賀鉄道沿線の景観向上で利用客増を目指す。 搾油・瓶詰の作業のうち単純作業は障害者雇用を積極的に行う。
現時点における課題、その他	菜の花プロジェクトに取り組む農業団体・農村集落が話し合う協議会的な組織が必要。
課題、その他に対する改善策	菜の花プロジェクトに取り組む農業団体・農村集落が参加する協議会的な組織を立ち上げる。
(いつまでに、何を、どうする)	